

約を緩和するために、場合によっては模型の製作でも良いとした。平成 21 年度からは、発表形式をプロジェクトを使用した発表形式だけでなく、言わばポスターセッション形式の発表も取り入れ、担当の 8 名の教員と全チームが、製作を進めているモノについて、より深く討論できるように改善した。外部評価の審査員は、企業から 2 名程度、発明協会宮崎支部から 2 名程度、都城市工業振興課から 2 名程度で構成していたが、平成 22 年度からこれに加えて技術士会から 2 名の参加を頂くことになった。また、平成 19 年度までは、評価はグループ評価だけであったが、平成 20 年度から学生の要望を取り入れ、個人評価も行うこととした。

以上のように、「創造デザイン演習」については、担当教員 8 名や学生と相談しながら、テーマの設定、中間発表の時期や発表形式、作り出す「モノ」の範囲、外部評価の取り入れ方など、毎年、改善している。

(6) インターンシップ（実務実習）の実施状況

専攻科では、「総合機械電気メーカや宮崎県下の企業において実習を一定期間実施することで、より実践的で現実的な技術を体験させると同時に、専門的知識や技術の重要性及び現場での問題点を認識させ、その後の専攻科での学習研究生活の糧とする」ことを目的として、1 年次において「インターンシップ（実務実習）」を必修科目として実施している。実習期間は、夏季休業中の適当な期間に 3 週間（実働 15 日）以上実施し、学習した事柄は報告書としてまとめ、指導教員へ提出する。

インターンシップは、必修科目であるので、当然全員が受講している。インターンシップ後は、学習報告書を提出させ、その発表会を各専攻で実施している。成績評価は、インターンシップ受入先から発行される実習証明書に記載された実習評価点、そのれに加えて、学生が提出する実務実習報告書及び実務実習発表会を各専攻の全教員で評価し、これを総合して行っている。

実習先は、市内企業を中心に、全国規模の企業や、都城市役所、宮崎県庁などやその関係研究機関、大学等の研究機関と様々である。市内企業においては、霧島工業クラブ会員の企業が中心であり、本校地域連携センターを窓口として、受け入れ先を調整している。また、今年度は他大学が主催する海外調査への参加も、実務実習として認定している。

しかし、毎年、インターンシップ受け入れ先を確保するのに、大変苦労している。今年度は、全国規模の会社で、インターンシップの募集があり、いざ応募したところ断られてしまうなどの問題も発生している。さらに、企業等が準備する実習期間が大学等の夏季休業中（8 月半ばから 9 月）に併せて実施されるものが多く、本校の学生がインターンシップを行う場合、公欠として参加するしかなく、授業に影響が出るなどの問題もある。また、近隣に 3 週間の長期間インターンシップを受け入れる余裕のない零細な企業が多い。そこで、3 週間の実習期間を分割して複数の企業等でインターンシップを実施することも許可している。また、高専機構が海外インターンシップを主催し、その枠を広げようと努力している。今年度は、これに参加を希望する学生もでてきた。何れにしろ、インターンシップの受入先を確保するのが大きな問題となっているのは、今後も継続すると考えられる。

なお、過去 2 年分のインターンシップ先を下記に示す。

平成 21 年度 実務実習先及び実習期間					
No.	専攻名	学生名	企業等名	実習期間	実習日数
1	ME (M)	有満翔一	都城木材株式会社	7/21～8/10	16
2	ME (M)	川畑貴広	(有) 日本環境整備公社	8/3～8/7	5
			都城市役所	7/27～7/30	4
			修行自動車	8/8～9、8/24～8/27	6
3	ME (M)	竹松雅樹	株式会社九州コガネイ	7/21～8/10	15
4	ME (M)	永峯征弥	ユニードパック株式会社	7/22～8/8	15
5	ME (M)	原崎諒	都城市役所	7/22～8/7	12
			修行自動車	7/17～7/20	3

6	ME(M)	三島健吾	株式会社シンコー	7/27~8/4	5
			高畑精工株式会社	8/17~8/29	10
7	ME(M)	向井大樹	都城木材株式会社	7/21~8/10	16
8	ME(M)	本木隼人	えびの電子工業(株)	7/21~8/7	15
9	ME(M)	山下仁	株式会社サニーシーリング	8/17~9/4	15
10	ME(E)	鎌田千広	富士通(株)	8/16~8/21	6
			京セラコミュニケーションシステム(株)	8/4~8/8	5
			日本情報クリエイト株式会社	11/17~11/20	4
11	ME(E)	下園伸児	日本情報クリエイト株式会社	8/17~9/4	15
12	ME(E)	月川誠二	サニーシーリング	8/17~9/4	15
13	ME(E)	松田哲也	シャープ株式会社	8/18~9/9	16
14	C	江藤智弘	霧島酒造(株)	7/21~8/7、9/25	15
15	C	児玉和也	宮崎県木材利用技術センター	7/27~8/14	15
16	C	齋藤悠衣	休学中(平成20年度実施済み)		
17	C	出水紀行	(独)産業技術総合研究所	7/21~8/21	21
18	C	長峰美奈	九州沖縄農業研究センター	7/17~8/7	15
19	C	東丸幸江	九州沖縄農業研究センター	7/17~8/7	15
20	C	前村莉澄	宮崎大学工学部	7/21~8/10	15
21	C	益留和恵	コーキン化学株式会社	7/27~8/21	15
22	A	竹中麻衣子	宮崎県木材利用技術センター	7/21~8/21	15
23	A	松木亮	上田工業株式会社	7/22~8/8	15
24	A	米丸祐太郎	休学中		
平成20年度 実務実習先及び実習期間					
No.	専攻名	学生名	企業等名	実習期間	実習日数
1	ME(M)	榮徳幸祐	大和工機(株)	7/15~8/29	15
2	ME(M)	小河裕樹	大和工機(株)	7/15~8/29	15
3	ME(M)	神田直哉	大和工機(株)	7/15~8/29	15
4	ME(M)	高橋泰輝	大和工機(株)	7/15~8/29	15
5	ME(M)	種子田卓也	大和工機(株)	7/15~8/29	15
6	ME(M)	戸高磨利央	四国旅客鉄道株式会社(JR四国)	8/4~8/22	15
7	ME(M)	山下浩幸	大和工機(株)	7/15~8/29	15
8	ME(E)	落合亮太	株式会社 ミットヨ	7/16~8/8	17
9	ME(E)	西山雄	双信電機(株)宮崎工場	8/4~8/29	20
10	ME(E)	福留生将	ソニーEMCS(株)一宮テック	7/23~8/12	15
11	ME(E)	松下正吾	チームラボ(株)	8/18~9/5	15
12	ME(E)	山下恭平	シャープ株式会社	8/19~9/3	15
13	C	大塚孟	霧島酒造(株)	8/4~8/27	18
14	C	奥津加奈	関西ペイント株式会社	7/22~8/11	15
15	C	木原香織	宮崎県木材利用技術センター	7/15~8/6	16
16	C	齋藤悠衣	南日本酪農協同(株)	7/21~8/8	15
17	C	田中那朋	九州沖縄農業研究センター	7/15~8/8	18
18	C	谷口竜也	休学中		
19	C	遠矢遼	(独)産業技術総合研究所	7/15~8/15	24

20	C	長友拓也	南日本酪農協同（株）	7/21～8/8	15
21	C	山内涼輔	住鋁潤滑剤株式会社	7/22～8/8	15
22	A	東郷尚平	長崎大学工学部 構造工学科	7/23～8/12	15
23	A	西祥太郎	宮崎県木材利用技術センター	7/22～8/11	15
24	A	橋口寛人	（有）COGITO	7/22～8/8	16
25	A	原侑一郎	（有）ウェルテック	7/16～8/8	17
26	A	森裕次	（株）益田設計事務所	7/16～8/4	16

注： ME(M)：機械電工工学専攻（機械系）、ME(E)：機械電工工学専攻（電気系）
C：物質工学専攻、A：建築学専攻

(7) 専攻科特別研究の方針と実施状況

専攻科特別研究は、「指導教員のもとで、研究対象の実験的、理論的解析方法及び評価方法を習得させ、2年間の研究成果を特別研究論文にまとめ、特別研究発表会にて発表する。基礎的知識を実践的研究に発展させる過程の中で、独創性、積極性さらには協調性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得させる」ことを目的として、専攻科1年～2年にかけて14単位の科目として実施している。

専攻科特別研究は、1年次末に中間発表を実施し、2年次末に特別研究発表会を実施している。評価は、各専攻の全教員により、特別研究論文、発表時に記載する発表概要、中間発表を含めた発表時のプレゼンテーションや質疑応答等を、全専攻に共通した詳細な採点票を用いて、総合的に評価している。

専攻科特別研究は、ほとんどの学生が本科5年の卒業研究テーマを継続して研究に取り組むので、研究機関は実質3年間となっている。また、特別研究の内容の一部をまとめて、学位を取得するための学習成果レポートとして作成し、大学評価・学位授与機構に提出している。大学評価・学位授与機構では、レポートの内容を審査し、さらにその内容や理解度について試験を実施している。また、「生産デザイン工学」プログラムでは、学教会等への発表を義務づけており、全学生がこれを実施している。すなわち、専攻科特別研究の研究内容は、本校教員だけではなく、第三者からの評価も受けていることになる。

なお、下に過去2年間の専攻科特別研究テーマを記す。

平成21年度特別研究テーマ			
No.	専攻名	学生名	特別研究テーマ
1	ME(M)	榮徳幸祐	竹繊維の高温雰囲気における強度評価及び寸法効果
2	ME(M)	小河裕樹	オーラリー（惑星儀）の製作
3	ME(M)	神田直哉	高強度鋼(YAG350)疲労強度向上に関する研究
4	ME(M)	高橋泰輝	かさ歯車搬送ロボットの開発
5	ME(M)	種子田卓也	円筒縦型燃焼炉及びハウス加温機のタービュレーターを設置した小型バーナーの燃焼特性
6	ME(M)	戸高磨利央	吹出し風洞内の地面模擬を用いたエアロトレインに関する研究
7	ME(M)	山下浩幸	切欠き材にショット処理したマルエージング鋼の疲労強度
8	ME(E)	落合亮太	神経細胞における樹状突起の受動特性モデルに関する考察
9	ME(E)	西山雄	農業支援応用システムのための研究-自律分散型リモートセンシングネットワークの応用-
10	ME(E)	福留生将	窒素ガス中における大気圧無声グロー放電に関する研究
11	ME(E)	松下正吾	農業支援応用システムのための研究-農業支援システムの視覚化-
12	ME(E)	山下恭平	真空蒸着法により堆積させたAgInS ₂ 薄膜のAg/In比依存性
13	C	大塚孟	硫黄原子と酸素原子を有する新規ゲル型抽出剤の合成とPd(II)およびAu(III)の抽出平衡

14	C	奥津加奈	高速低温スパッタ法による TiO ₂ 光触媒薄膜の成膜技術開発と薄膜成長モデル解明に関する研究
15	C	木原香織	排水の嫌気処理プロセスにおける物質動態と微生物生態の解析
16	C	齋藤悠衣	(留学の為休学)
17	C	田中那朋	サツマイモアシルトランスフェラーゼの cDNA クローニングと発現様式
18	C	谷口竜也	休学中
19	C	遠矢遼	F-アクチンとウサギ骨格筋及び細胞性粘菌 HMM 間の協同的結合の解析
20	C	長友拓也	1, 1-ジフェニルエテン 誘導体への脂肪族第1級アミンの光付加反応
21	C	山内涼輔	マイクロチップ中における t-BuNH ₂ の1, 1-ジフェニルエテンへの光付加反応
22	A	東郷尚平	高次ラグランジ変位関数を用いた有限要素法による幾何学的非線形解析
23	A	西祥太郎	螺旋円筒の自由振動解析
24	A	橋口寛人	光線追跡法を用いた OAL 可視領域の定量的解析方法について
25	A	原侑一郎	人工気象室を用いた 2・3 次元熱橋壁体の温度分布に関する研究
26	A	森裕次	任意軌道を持つ円筒シェルのみずみ・変位関係式の誘導とその応用―片持ちトーラスシェルの自由振動解析―

平成 20 年度特別研究テーマ

No.	専攻名	学生名	特別研究テーマ
1	ME(M)	井上貴昭	硬さレベルを変えたマルエージング鋼の疲労強度に及ぼすショットピーニングの影響
2	ME(M)	今西隼也	翅の動きの擬似的な再現および空力学的性能の測定
3	ME(M)	上山 浩	データベースを利用した Web アプリケーション型 RSS リーダーの開発
4	ME(M)	富吉勇太	加熱SVO燃料を用いた渦流室式ディーゼル機関の性能および排気ガス特性
5	ME(M)	中尾重之	渦法と境界層計算による地面効果翼の数値解析
6	ME(M)	濱村俊之輔	シール強度に及ぼす製袋時の熱刃挙動に関する研究
7	ME(E)	富岡奉文	ホットスポット酸素濃度計の作製
8	ME(E)	宮本明幸	ホットスポット酸素センサの作製と評価
9	ME(E)	吉松王彦	周波数応答法による He 中における He ⁺ の移動度測定―測定結果の問題点と、その原因についての考察―
10	C	押川裕和	D-アスパラギン酸を資化する好熱性細菌の探索
11	C	相良美穂	高度処理嫌気システム浄化槽中の物質動態と嫌気プロセスの解析に関する研究
12	C	種子田浩志	高速低温スパッタリング技術による Ta ₂ O ₅ 固体電解質薄膜の作製とその物性評価に関する研究
13	C	福留政治	高速低温スパッタリング技術による WO ₃ 還元発色薄膜の作製とその物性評価に関する研究
14	C	南沙都子	構造制御型多孔中空マイクロカプセルによる貴金属抽出速度の高速化
15	C	南拓	2-ドデシルチオメチルピリジン含浸樹脂による Pd(II)の吸着特性とその吸着機構の解明
16	A	新原 丈二	傾きを持った螺旋曲板の自由振動解析
17	A	大平原真悟	各種建物温熱環境下における体感指標 PMV 及び SET*の相関
18	A	野邊秀太	人工気象室を用いた 2・3 次元熱流の温度分布に関する研究

19 A 川路将太 光線追跡法を用いたランドマーク可視領域の定量的解析方法について
—ランドマークのボリュームに着目した可視領域判定—

注: ME(M):機械電工工学専攻(機械系)、ME(E):機械電工工学専攻(電気系)
C:物質工学専攻、A:建築学専攻

(8) 学協会等発表の実施状況

「生産デザイン工学」プログラムでは、研究の質の確保やプレゼンテーション能力を育むために、学協会等での発表を義務づけ、修了要件としている。平成19年度専攻科入学生より、専攻科の修了要件に「生産デザイン工学」プログラムの修了が義務づけられたことより、事実上、専攻科の修了要件となっている。したがって、平成20年度以降の修了生に、学協会等での未発表者は存在しない。また、専攻科では設置当初から、学協会等での論文の発表を推奨してきており、平成19年度以前の専攻科修了生にも、学協会等での未発表者は存在していない。

専攻科生が学協会等での発表を行うことに対し、1回分のみ、交通費・宿泊費を、後援会より補助していただいている。また、「学協会等での発表」とは、下記の条件を満たした場合のみ認めている。

(学協会等での発表)

1. 学協会等での発表は、本人が口頭（ポスターセッションも可）で行うこと。
2. 学協会等は都城高専以外の「学生」若しくは「一般の研究者」等が発表していること。
3. 発表会には、「一般の研究者」の参加があり、発表に対するコメントがなされていること。
注意:「一般の研究者」とは、研究機関（大学・高専、研究所等）の職員、大学院生以上の学生等のことである。

なお、下に過去2年間の発表学協会名を記す。

平成21年度修了生 発表学協会等名及び開催日				
No.	専攻名	学生名	発表学協会等名	開催日
1	ME(M)	榮徳幸祐	第2回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H20. 3. 21
			日本材料学会 第57期学術講演会	H20. 5. 24～25
			第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
2	ME(M)	小河裕樹	日本機械学会九州学生会第39回卒業研究発表後援会	H20. 3. 18
			日本機械学会九州学生会第40回卒業研究発表後援会	H21. 3. 9
3	ME(M)	落合亮太	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
4	ME(M)	神田直哉	第3回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H21. 3. 23
5	ME(M)	高橋泰輝	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
6	ME(M)	種子田卓也	第2回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H20. 3. 21
7	ME(M)	戸高磨利央	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
8	ME(E)	西山雄	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
9	ME(E)	福留生将	平成21年度電気関係学会九州支部連合大会	H21. 9. 28～29
10	ME(E)	松下正吾	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
11	ME(E)	山下恭平	第56回応用物理学関係連合講演会	H21. 3. 31～4. 2
12	ME(M)	山下浩幸	第3回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H21. 3. 23
13	C	大塚孟	第45回化学関連支部合同九州大会	H20. 7. 5
			第46回化学関連支部合同九州大会	H21. 7. 11

14	C	奥津加奈	第 50 回真空に関する連合講演会	H21. 11. 4～6
15	C	木原香織	第 19 回九州沖縄地区高専フォーラム 第 15 回高専シンポジウム in いわき	H21. 12. 5 H22. 1. 23
16	C	田中那朋	園芸学会 平成 21 年度秋季大会	H21. 9. 26～27
17	C	遠矢遼	第 47 回日本生物物理学会年会	H21. 10. 31～11. 1
18	C	長友拓也	第 15 回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
19	C	山内涼輔	第 15 回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
20	A	東郷尚平	第 15 回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
21	A	西祥太郎	第 15 回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
22	A	橋口寛人	第 48 回日本建築学会九州支部研究発表会	H21. 3. 8
23	A	原侑一郎	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
24	A	森裕次	第 15 回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23

平成 20 年度修了生 発表学協会等名及び開催日

No.	専攻名	学生名	発表学協会等名	開催日
1	ME(M)	井上貴昭	日本機械学会九州学生会 第 39 回卒業研究発表講演会	H20. 3. 18
2	ME(M)	今西隼也	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
3	ME(M)	上山浩	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
4	ME(M)	富吉勇太	第 2 回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H20. 3. 21
5	ME(M)	中尾重之	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
6	ME(M)	濱村俊之輔	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
7	ME(E)	浦田怜士	(退学)	
8	ME(E)	富岡奉文	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
9	ME(E)	宮本明幸	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
10	ME(E)	吉松王彦	(未発表)	
11	C	押川裕和	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
12	C	相良美穂	第 45 回化学関連支部合同九州大会 化学工学会 第 74 年会	H20. 7. 5 H21. 3. 18～20
13	C	種子田浩志	2007 年応用物理学会九州支部学術講演会 第 49 回真空に関する連合講演会 2008 年応用物理学会九州支部学術講演会	H19. 12. 1～2 H20. 10. 28～31 H20. 11. 29～30
14	C	福留政治	2007 年応用物理学会九州支部学術講演会 第 49 回真空に関する連合講演会 2008 年応用物理学会九州支部学術講演会	H19. 12. 1～2 H20. 10. 28～31 H20. 11. 29～30
15	C	南紗都子	第 45 回化学関連支部合同九州大会	H20. 7. 5
16	C	南拓	第 45 回化学関連支部合同九州大会 化学工学会 第 74 年会	H20. 7. 5 H21. 3. 18～20
17	A	大平原真悟	第 13 回高専シンポジウム in 久留米	H20. 1. 26～27
18	A	川路将太	第 47 回日本建築学会九州支部研究発表会	H20. 3. 2
19	A	新原丈二	第 14 回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
20	A	野邊秀太	第 13 回高専シンポジウム in 久留米	H20. 1. 26～27

注: ME(M):機械電工工学専攻(機械系)、ME(E):機械電工工学専攻(電気系)
C:物質工学専攻、A:建築学専攻

(9) 教育点検の実施状況

専攻科教育の点検の中心組織として、専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会があり、それぞれの委員会は、不定期であるが、おおよそ月1回の割合で開催している。

各専攻を含む各専門学科の教育の点検・改善は、学科教育点検班が行い、専攻科における授業や学生の成績に関する教育点検・改善は専攻科授業担当者会議が行う。学科教育点検班と専攻科授業担当者会議の点検・改善事項は、独自で実施できる項目を除き、専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会に報告され、さらに点検・改善が検討される。

専攻科授業担当者会議は、専攻科委員会委員と技術者教育プログラム委員会委員が共同で主催し、基本的に前期・後期の期末試験終了後、年2回実施される。専攻科授業担当者会議では、専攻科学生、非常勤講師、常勤講師など、授業に係わる全学生、全教員の授業に対する意見・要望を集約し、議論され、検討すべきと判断された事項に関しては、改めて専攻科委員会で検討している。また、専攻科委員会以外で検討すべき事項は、その関連委員会等へ検討を依頼している。

本校では、本科4,5年と専攻科で開講されている全科目の試験問題、模範解答、学生の試験答案及びレポートを収集保存しているが、技術者教育プログラム委員会では、規則どおり、それが保管されているか、次年度に点検している。平成21年度（平成20年度分）は、これに加えて試験問題の出題及び採点並びに総合評価が、授業計画（シラバス）に基づいて適切になされているか点検した。その点検の結果、幾つかの授業で、不適切なものがあり、それらの科目の担当教員に改善を求め、平成22年度（平成21年度分）、改善されていることを確認した。

6 FD活動

(1) 各種研修活動

平成18年度までは、年1回の校内教員研修会開催や外部機関の主催する教員研修への参加が行われていたが、組織的な取組はなされていなかった。平成19年度にFD委員会によって「都城工業高等専門学校FD実施要項」が定められ、FD委員会の企画運営のもとに確実に組織的な各種研修活動が保障され実施されるようになった。例えば、校内教員研修会が、講演の聴講といった受け身の形から、教員の協議といった能動的な形へと充実し、かつ、これまでほとんど実施されなかった公開授業が平成20年から定期的に実施されるようになった（表Ⅱ6(1)-1）。

都城工業高等専門学校FD実施要項

平成19年9月3日制定
平成22年5月7日改正
都城工業高等専門学校FD委員会

1. 都城工業高等専門学校（以下、「本校」という。）FD委員会規則第3条にもとづき、FD実施項目と実施方法を以下のように定める。
2. FDとして、以下を実施する。
 - (1) 校内教員研修会
 - (2) 校内各種講演会等
 - (3) 機構本部等本校以外の機関が実施する教員研修及び講演会等への派遣
 - (4) 校内公開授業
3. 校内教員研修会
 - (1) 講演又は協議とする。
 - (2) 講演及び協議事項は、教務主事、各指導部代表委員及び各学科代表委員から提案をもらい、FD委員会で調整し決定する。
なお、委員以外から要望があった場合には、委員長はFD委員会に諮ることができる。
 - (3) 全教員を対象として実施する。
 - (4) 開催時期及び回数は、原則として、夏季休業中の1日とする。
 - (5) 出席者を記録する。
 - (6) 実施後、出席者に対しアンケート調査を実施する。
4. 校内各種講演会等
 - (1) 主事及びセンター長等が独自に企画する講演会等について、FDとして位置づけ可能なものは、企画者とFD委員会の共催として実施する。
 - (2) 出席者数を記録し、必要と判断される場合、アンケート調査を実施する。
5. 機構本部等本校以外の機関が実施する教員研修及び講演会等への派遣
 - (1) FD委員長が、全教員に案内を行い、候補者を人選し、校長が決定する。
 - (2) 参加者は、終了後、報告書（書式自由：実施要項等と復命書のコピーで可）をFD委員会に提出する。
6. 校内公開授業
 - (1) 1年度に10回程度実施する。実施月は、4月、5月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月とする。
 - (2) 前年度に公開授業教員とその授業月を決定する。
 - (3) 教員の決定において、学科等バランス、全教員（常勤）が概ね6年に1回経験するよう配慮する。
 - (4) FD委員会は、公開授業実施日の約2週間前に公開授業の案内（教員名、科目名、日時、時限）を行う。
 - (5) FD委員会は授業参観希望者を募集し、参観者数は、教室の大きさ等を考慮して調整する。また、FD委員会は、適当と認められる教員に参観を求める。
 - (6) 授業参観者アンケートを実施する。FD委員会は、アンケートのコピーを公開授業教員に提供する。

表Ⅱ6(1)-1 FD活動実績

区 分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
校内教員研修会 (年1回)	<ul style="list-style-type: none"> 講演1「生徒指導について」 都城泉ヶ丘高校長 下高原信義 報告「本校の自己評価と今後の課題」 認証評価対応委員長 樋口栄作 (出席教員50) 	<ul style="list-style-type: none"> 講演1「地元が高専に期待するもの」 都城商工会議所専務理事 柚之原久郎 講演2「カウンセリングマインドー担任とカウンセリング」 本校カウンセラー 鈴木美保子 講演3「セクシャルハラスメントの防止等について」 永野和義 (出席教員44) 	<ul style="list-style-type: none"> 講演1「いまどきの教育を考える」 N HK解説委員 早川信夫 講演2「産学連携等について」 地域連携センター長 濱田英介 (出席教員50) 	<ul style="list-style-type: none"> 協議「人間の素養の涵養に関する教育の充実について」 (出席教員46) 	第1回 <ul style="list-style-type: none"> 協議「都城高専における就職キャリア支援の在り方」 (出席教員57) 第2回 <ul style="list-style-type: none"> 協議「シラバス内容の検討について」 (出席教員延82) 注) 当年は2回(別日)開催
学外教員研修会	<ul style="list-style-type: none"> 高等専門学校教員研究集会 高等教育コンソーシアム宮崎研究協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 九州沖縄地区国立高専教員研究集会 高等専門学校教員研究集会プロジェクト研究集会 高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 九州沖縄地区国立高専教員研究集会 高等専門学校教員研修(クラス経営生活指導) 高等専門学校教員研究集会プロジェクト研究集会 高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 九州沖縄地区国立高専教員研究集会 高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会 国際工学教育研究集会 	<ul style="list-style-type: none"> 九州沖縄地区国立高専教員研究集会 高等専門学校教員研修(クラス経営生活指導) 教育方法改善教育プロジェクト高専教員研究集会 高等教育コンソーシアム宮崎合同研修会 留学生国際交流担当教員研究集会
学外教員研修講演発表	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会講演発表 	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会講演発表 	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会講演発表 	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会講演発表 	<ul style="list-style-type: none"> 国際工学教育研究集会講演発表
校内公開授業	なし	なし	なし	8回(教員)	9回(教員)

さらに、本校以外の機関が実施する教員研修及び講演会等への派遣も、FD委員会(委員長)がその調整の中心となり、適切な人選によって確実に派遣できるようになった。FD活動の実績を表Ⅱ6(1)-1に示す。

校内公開授業は、計画的に実施されているが、毎回、出席者(参観者)が数名にとどまっており、教員の意識を高める方策が求められる。ただし、出席者は少ないが、有効な評価と意見が公開授業実施者に伝えられている。

(2) 学生による授業評価の実施と授業改善実績

学生による授業評価アンケートを毎年実施している。講義形式の授業科目については全科目実施し、演習及び実験科目については、授業担当者の判断によって適宜実施している。この選択肢方式のアンケート調査の他に、無記名の記述式による授業への要望書を所定のポストに投函させている。この投函された要望書は

教務主事しか見ることはできず、教務主事の判断で、該当科目教員に内容を伝え、検討してもらっている。

アンケートは、通年科目は、年2回（前期末と学年末）、前期終了科目は前期末1回実施し、それを教務係が集計し、集計結果を担当科目教員に送り、担当科目教員は集計結果を分析し、＜分析結果＞と＜今後の課題＞を提出している。年度末に、集計結果と＜分析結果＞と＜今後の課題＞を内容とする報告書を作成し、次の年度初めに公表している。

各教員が、＜今後の課題＞を作成した時点で、今後、何らかの授業改善がなされることが期待されるが、この学生による授業評価とそれに基づく教員の今後の課題意識が、実際に授業改善につながっているかを検証するために、別途、隔年で、「授業改善実績調査」を行っている。これまで、平成17年度、平成19年度、平成21年度に実施し、改善につながっていることを明らかにした。

7 卒業予定者・専攻科修了予定者の進路指導

(1) 進学指導

進学指導は、各学科の4,5年学級担任と学科長が行っており、学校全体としての取組はない。ただし、大学編入学志願者のうち、志願書類で学校長の推薦を必要とする者について、学校長は個別面接を行って、人物の確認と受験上の指導を行っている。募集要項や過去問題については、コミュニティースペースで閲覧できるようにしている。進学の道は、主に高専専攻科入学と大学編入学とがある。

表Ⅱ7(1)-1で、過去5年間の高専専攻科入学と大学編入学の実績を示す。

表Ⅱ7(1)-1 過去5年間の高専専攻科入学・大学編入学の実績

区分	入学年度（平成）	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
高専 専攻科	都城高専	14	25	25	23	24	
	有明高専		1				
	計	14	26	25	23	24	
大 学 編 入 学	国	東京農工大学		2	2	3	
		電気通信大学		1			
		長岡技術科学大学	2	5	2	7	4
		豊橋技術科学大学	6	5	4	4	3
		大阪大学				1	
		神戸大学					1
		和歌山大学	1				
		広島大学	1			1	1
		山口大学	1	1		2	2
		九州大学	2	2	2	1	
	立	九州工業大学	3	5	3	4	4
		佐賀大学				1	
		長崎大学	1			1	
		熊本大学	4	6	9	6	4
		大分大学			1		
		宮崎大学	2	1	1	5	1
		鹿児島大学	2	2	1	2	4
		公立	北九州市立大学				1
熊本県立大学	1						

私立	千葉工業大学			1		
	東京工科大学			1		
	東京理科大学	1				
	武蔵工業大学				1	
	立命館大学	1			1	1
	徳島文理大学	1				
	九州産業大学	1				
計		30	30	27	41	26
合計		44	56	52	64	50

本科での進学と就職の比率は、ほぼ1対2であり、高専設置の目的である「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」を外れていない。

(2) 就職指導

① 就職指導

就職状況及び支援体制について（地域産業コーディネーター）

就職状況は、平成20年のアメリカのリーマンショック以来、急激に悪化している。特に本校の平成21年度の求人倍率は13倍と前年度と比較して急激に低下した。平成22年度は、1次試験で不採用となる学生が増加し、特に女子の就職はかなり厳しいものとなってきている。企業はコミュニケーション能力に力点をおいた採用を展開しており、本校でもこれに対応した就職支援が必要となってきている。表Ⅱ7(2)-1に平成17年度からの地区別就職状況を示す。

宮崎県内への就職者は約10%程度であり、今後県内就職希望者のための企業の開拓が必要である。また、Uターンの卒業生を地場の企業に受け入れるための方策を検討することも重要であるとする。

表Ⅱ7(2)-1 地区別就職状況について

年度	区分 学科	就職者数			宮崎県内			京浜地区			京阪神地区			その他の地区		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成17年度	機械工学科	30	0	30	1	0	1	11	0	11	6	0	6	12	0	12
	電気工学科	16	1	17	1	0	1	6	0	6	5	0	5	4	1	5
	物質工学科	15	11	26	3	3	6	4	5	9	5	3	8	3	0	3
	建築学科	22	7	29	1	3	4	7	2	9	11	2	13	3	0	3
	計	83	19	102	6	6	12	28	7	35	27	5	32	22	1	23
平成18年度	機械工学科	29	0	29	4	0	4	12	0	12	2	0	2	11	0	11
	電気工学科	18	2	20	2	0	2	8	2	10	6	0	6	2	0	2
	物質工学科	14	11	25	0	0	0	11	5	16	2	4	6	1	2	3
	建築学科	20	9	29	4	1	5	10	2	12	2	1	3	4	5	9
	計	81	22	103	10	1	11	41	9	50	12	5	17	18	7	25
平成19年度	機械工学科	26	1	27	6	0	6	5	1	6	1	0	1	14	0	14
	電気工学科	25	1	26	2	0	2	9	0	9	5	0	5	9	1	10
	物質工学科	11	13	24	1	2	3	2	6	8	3	3	6	5	2	7
	建築学科	12	12	24	0	2	2	7	4	11	4	4	8	1	2	3
	計	74	27	101	9	4	13	23	11	34	13	7	20	29	5	34

平成20年度	機械工学科	16	0	16	1	0	1	8	0	8	3	0	3	4	0	4
	電気工学科	21	0	21	0	0	0	9	0	9	5	0	5	7	0	7
	物質工学科	12	12	24	0	0	0	4	5	9	4	5	9	4	2	6
	建築学科	13	7	20	1	1	2	8	3	11	2	3	5	2	0	2
	計	62	19	81	2	1	3	29	8	37	14	8	22	17	2	19
平成21年度	機械工学科	28	1	29	4	0	4	15	1	16	2	0	2	7	0	7
	電気工学科	23	4	27	2	1	3	10	2	12	4	1	5	7	0	7
	物質工学科	9	8	17	0	0	0	4	4	8	2	0	2	3	4	7
	建築学科	16	4	20	2	2	4	5	1	6	4	1	5	5	0	5
	計	76	17	93	8	3	11	34	8	42	12	2	14	22	4	26
最近5ヶ年総計		376	104	480	35	15	50	155	43	198	78	27	105	108	19	127

② 進路指導対策（適性試験）

進路指導対策として4年生の適性試験を実施している。表Ⅱ7(2)-2,3に適性試験に関する内容と受験率を示す。平成18年度からは11月に実施しほぼ100%の学生が受験している。適性試験の結果は、各学生に配布し進路についての参考となるように配慮している。今後は、この適性試験の実施の有効性を検証する必要がある。

表Ⅱ7(2)-2 4年生適性試験について

年度	学年	試験内容	試験日	受験者数	問題作成会社及びグレード
平成17年度	4	一般常識A	5・6月	159	(株)一橋出版 (大学用)
		適性検査SPI		155	(株)実務教育出版 (大学用)
	計			314	
	3	一般常識L1	11月	167	教育評価研究所 (高校用)
		職業適性A		167	教育評価研究所 (高校用)
計			334		
平成18年度	4	一般常識A	11月	157	(株)一橋出版 (大学用)
		適性検査SPI		158	(株)実務教育出版 (大学用)
	計			315	
平成19年度	4	一般常識A	11月	155	(株)一橋出版 (大学用)
		適性検査SPI		155	(株)実務教育出版 (大学用)
	計			310	
平成20年度	4	一般常識A	11月	147	(株)一橋出版 (大学用)
		適性検査SPI		150	(株)実務教育出版 (大学用)
	計			297	
平成21年度	4	一般常識A	11月	161	(株)一橋出版 (大学用)
		適性検査SPI		161	(株)実務教育出版 (大学用)
	計			322	

表Ⅱ7(2)-3 適性試験の受験率

年 度	学 年	区 分	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	計
平成17年度	4	受験者数	81	72	78	83	314
		学生数	82	72	86	84	324
		受験率 (%)	98.8	100	90.7	98.8	96.9
	3	受験者数	81	87	86	80	334
		学生数	82	90	86	80	338
		受験率 (%)	98.8	96.7	100	100	98.8
平成18年度	4	受験者数	76	81	84	74	315
		学生数	76	84	88	74	322
		受験率 (%)	100	96.4	95.5	100	97.8
平成19年度	4	受験者数	72	76	84	78	310
		学生数	78	76	88	78	320
		受験率 (%)	92.3	100	95.5	100	96.9
平成20年度	4	受験者数	75	79	70	73	297
		学生数	76	82	70	79	307
		受験率 (%)	98.7	96.3	100	92.4	96.7
平成21年度	4	受験者数	76	82	86	78	322
		学生数	76	82	86	78	322
		受験率 (%)	100	100	100	100	100

表Ⅱ7(2)-4 平成18年度～平成21年度の就職求人状況

年 度	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	求人倍率
平成18年度	460	440	267	180	13.1
平成19年度	578	560	380	225	17.3
平成20年度	602	605	343	195	21.3
平成21年度	424	420	251	202	13.9

このような状況下で、地域連携センターを中心に平成20年度から平成22年度の3ヶ年間『地域産業コーディネーター』事業の補助を受け、地域コーディネーターとして2名（大手企業部長経験者と霧島工業クラブ参与）を任用し、学内の就職支援（4年生・専攻科学生のインターシップ、県内の約60社を訪問し企業開拓の実施）を強化している。また、企業を離職した卒業生（Uターン・Iターン）からの依頼があれば、再就職先を5年卒業時の担任や地域コーディネーターが連携しながら支援活動を始めている。

地元企業への再就職に関しては、霧島工業クラブや同窓会等との連携を強化している。平成21年度は、就職希望者111名中11名が県内企業に内定し、県内就職の道も開けてきている。今後とも地域産業コーディネーターを中心に、地元企業の開拓は継続して行く予定である。

平成23年度から本校の中期計画の中にキャリア支援室の設置を予定しており、低学年からのキャリア支援教育の充実を図る予定である。

③ 地域産業コーディネーター活動内容について

ア オリエンテーション

本科低学年生（1～3年生）を対象とし「働くことの意義と楽しさ」という演題で講演を行なっている。

（表Ⅱ7(2)-5）

表Ⅱ7(2)-5 平成21年度学年別講演内容

対 象	日 時	講 師
本科1年生	平成21年10月14日(水)	渡邊 祥造(コーディネーター)
本科2年生	平成21年10月28日(水)	〃
本科3年生	平成22年2月3日(水)	〃

イ オリエンテーション②

本科低学年生(1~3年生)を対象とし、圏域企業で働いている高専OB・OGを講師に「県内企業で働くこと、その魅力」という演題で講演を行っている。

表Ⅱ7(2)-6 平成21年度学科別講演内容

対 象	日 時	講 師
電気情報工学科 (1~3年生)	平成21年12月9日(水)	ツカサ電工(株) 吉田幸村 (茨城高専電子制御工学科卒)
物質工学科 (2・3年生)	平成22年1月20日(水)	(株)サニー・シーリング 荒木貞博 (都城高専工業化学科卒)
建築学科 (1~3年生)	平成22年1月27日(水)	(株)都城木材 福留福太郎 (都城高専建築学科卒)
機械工学科 (1~3年生)	平成22年2月10日(水)	(株)システム技研 大塚貴之 (都城高専機械工学科卒)

ウ 県内企業のデータ収集

コーディネーターが、求人票を出している企業や過去に採用実績のある県内企業を訪問し、経営者や採用担当者より情報を収集している。その情報内容としては、企業の概況、高専生の採用動向、高専生の評価(採用実績があれば)、Uターン既卒者の採用の可能性、どんな人材がほしいか等である。また、圏域内企業のインターンシップ受入先の選定支援も行っている。

この他、就職活動における面接試験対策や指導、圏域内企業就職希望者への情報提供や相談対応、Uターン卒業生の就職支援、各科で企業見学を行う場合に、見学先の選定のための情報提供や交渉先の紹介などを行う。

(3) 機械工学科・機械電気工学専攻(機械系)の進路指導と進路状況

① 進路指導

ア 指導体制

当学科には企業経験のある教員が多く、企業で従事した専門分野も多岐にわたっている。そのため、進路指導に関する部署を限定しないで、担任を中心として機械工学科の教員全体で学生の進路指導に当たっている。特に4・5年次は担任教員を連続させ、学生に助言しやすい環境を作ってもらっている。また、企業のリクルーターへの対応は、5年のクラス担任が行っているが、授業等の場合は学科長なども対応するシステムとなっている。その際に配布された会社パンフレット等は、学生が所定時間帯にいつでも閲覧できる専用の資料室に整備される。その資料室には、インターネットに接続可能なパソコンが3台完備され、学生は自由に活用できる。なお、学科長、専攻主任及び4・5年のクラス担任は様々な企業に対して就職開拓を行っている。

さて、ものづくりの現場を見学することは学生の就業意識を向上させるとして、工場見学を頻繁に実施している。1年次では宮崎県内の工場を見学し、2年次は毎年11月に行われている宮崎テクノフェア

を見学する。どちらも県内企業を知る上で良い経験となっている。3年次は継続して北九州地区の大企業の工場を見学している。4年次は春季休業を活用した恒例の関西・東海地区の大企業工場見学を実施している。関西へは大型旅客フェリーを利用するが、船長による操舵室の説明や、機関長から熱機関ルームを案内していただき、内容の濃い見学となっている。

4年次は特に進路を決定する上で大切な時期として位置づけ、多くの指導的行事を行っている。まず、4月には学内研修を行っている。これは当科卒業生3名を迎えた対話形式の研修であり、卒業生は親身になって後輩の将来への悩みや質問にじっくりと回答してくれるため、4年生にとって自らの進路を熟考するきっかけになっている。これら卒業生の中には進学をした後に会社に就職したケースもあり、進学を希望している学生にも貴重な研修となっている。

4年次の7月～8月は、インターンシップを実施する時期である。本学では選択授業と定めているが、生の現場を経験することで社会人としての心を涵養させる目的を含むため、当科ではインターンシップへの参加を勧めている。近年では、夏季休業中に豊橋・長岡の両技術科学大学がインターンシップを開講したため、進学を希望する学生が最先端の研究を体験できる場として活用できるようになっている。インターンシップ終了後は、担任の裁量で進路情報の提供や学生一人ひとりへの進路希望調査及びアドバイスの指導を充実させている。

最近の数年は、企業の求人活動の様相が大きく変化しており、5月半ばには求人活動を終了する企業が出てきた。そういった状況に対応するため、ここ数年は4年次の春季休業中に保護者を含めた三者面談を計画している。4年のクラス担任は、学生がどういった希望先を受験するのかをこの時期に決定させるのではなく、学生の進路設計に対する支援を指導目的としている。

5年次になると4月に一人15分程度の模擬面接を行っている。当科教員及び事務部門に協力していただいて実行している。入退出のおじぎから話し方まで細かい指導を行っている。さらに平成20年度に本学では二人の地域産業コーディネーターを雇っており、全学科横断的に面接指導を行っていただいている。

近年、ゴールデンウィーク前後に就職試験が集中し、6月～8月は進学受験（推薦選抜及び学力選抜）の時期になってきている。5年のクラス担任は、就職・進学受験に必要な書類の準備やエントリーシートあるいは履歴書の書き方等を指導すると同時に、可否に関わらず試験状況を細かく記載した報告書の提出までを指導している。

専攻科2年生になれば就職か進学を決する時期となる。専攻科生の進路指導は、専攻主任が行っている。専攻科2年始業早々、学生一専攻主任の面談などで各学生の進路について方針を決める。

大学院進学希望者には、過去の進学状況などを説明している。

イ 就職指導

表Ⅱ7(3)-1は平成17年～21年度の民間企業等からの求人数を示したものである。常時350社を越えており、多種多様な企業から高専生を求める声が高まっている。こういった状況であるため、学生には会社に関する正確な情報の取得を目指すことを求め、インターネットのホームページや会社資料の他に、事前に工場見学を出向いてエンジニアの方々との話を介するなどして総合的に進路希望先を選定するように指導している。最近では、放課後に企業説明会を実施したいと要望してくる企業が増えており、気になる企業であれば積極的に説明会へ参加し聴講するように指導している。最終的には本人の意志を尊重し、工業界の事情を良く理解させた上で、適材適所の就職になるよう指導している。なお、学生には就職受験に際して学校推薦と自由応募の相違を理解してもらうように指導している。

表Ⅱ7(3)-1 機械工学科の求人企業の総数 (単位:社)

平成・年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
企業数	363	499	578	602	424

ウ 進学指導

進学希望者に対しては、将来的な志望分野を念頭においた指導を心がけている。さらに推薦選抜と学力選抜、あるいは専攻科進学と大学編入学の相違を事前に説明し理解させている。近年、各大学は4月頃に大学編入学の募集要項を完成させ、6～8月に推薦あるいは学力選抜を実施している。また、4年次の1月から5年次の5月にわたって、各大学から教員が来校して大学あるいは学部の広報活動を行っている。特待生制度を導入し始める大学等が出てきており、大学の特色を知るためにも進学希望者には説明会への聴講を勧めている。最終的に進学して何がしたいのか等の目的意識を持ってもらうような指導を目指している。また、受験経験者による受験報告・体験記の提出や、大学から過去問を入手してそれらを参考に指導している。

② 進路状況

平成17年度以降の求人数は350社を越えており、不況に強い高専といえる。近隣の大学では、自由応募で企業を受験することが多いようだが、本科あるいは専攻科では、ほぼすべて学校推薦という形で就職試験を受験している。

表Ⅱ7(3)-2は、平成17年～21年度の就職先とその人数を示したものである。なお、就職者数のカッコは専攻科修了生の人数を内数で示している。採用していただいている企業は、製造業の大手メーカーと航空機整備会社であることがわかる。また、九州地区の企業が多く、北海道・東北地区はほとんどない。

表Ⅱ7(3)-3は、平成17年～21年度の進学先の一覧表である。なお、進学者数のカッコは大学院に進学した専攻科修了生の人数を内数で示している。進学者は、平成20年度以外は10名前後を推移していることがわかる。これはクラスの25%程度に相当する。大学に編入学する学生は、九州地区内の熊本大学及び九州工業大学への進学が目立ち、次いで長岡及び豊橋の両技術科学大学となっており、いずれも国立大学である。私立大学に編入学するケースは大変少ない。本学の専攻科が平成13年度に開設され、機械工学科から本学専攻科へは4人以上の入学を維持し続けており、最も多い進学先となっていることがわかる。他高専の専攻科には進学することはない。本学専攻科から大学院に進学した学生は、専攻科開設から4人にのぼる。いずれの大学院も国立大学である。

表Ⅱ7(3)-2 機械工学科の就職状況(平成17～21年) *()は専攻科修了生で内数 (単位:名)

就職先名	就職者数	就職先名	就職者数
三菱重工業(株)	12	(株)九南	1
旭化成(株)	11(2)	極東開発工業(株)	1
京セラ(株)	10	高エネルギー加速器研究機構	1
(株)JAL航空機整備	8	(株)アイ・エイチ・アイ マリユナテッド横浜工場	1
サントリー(株)	5	アニタス神戸	1
本田技研工業(株)	5	TMCシステム(株)	1
(株)三井ハイテック	4(2)	森永製菓(株)	1
大分キャノン(株)	4(2)	東京電力(株)	1
(株)東洋新薬	4	千住技研(株)	1
いすゞエンジニアリング(株)	3(2)	メタウォーター(株)	1
スズキ(株)	3(1)	東レ(株)	1
(株)森精機製作所	3(1)	花王(株)	1
(株)シマノ	3	(株)三陽商会	1
ソニーEMCS(株)	3	マトヤ技研工業(株)	1
(株)日産テクノ	3	富士ゼロックス(株)	1
(株)マツダ E&T	2(1)	パイオニア(株)	1
村田機械(株)	2	(株)システム技研	1
ホンダロック(株)	2	(株)テルミック	1
(株)ダッド	2	(株)童夢 カーボンマジック	1
シャープ(株)	2(1)	日本精工(株)	1
(株)トヨタプロダクションエンジニアリング	2(1)	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)	1
東洋インキ製造(株)	2(1)	日本鑄鍛鋼(株)	1
宮崎アスモ(株)	2(1)	(株)フジ技研カゴシマ	1
日産自動車(株)	2	(株)JALエアテック	1
(株)資生堂	2	大和ハウス工業(株)	1
大和工機(株)	2	キャノン(株)	1
(株)宮崎情報処理センター	2	(株)テクモ	1
(株)AGP(エージーピー)	2	(株)フジ技研	1
関西電力(株)	1(1)	西日本旅客鉄道(株)	1
(株)ニコン	1(1)	(株)ハタシ	1
東京エレクトロン九州(株)	1(1)	新日本製鐵(株)	1
東芝プラントシステム(株)	1(1)	日野自動車(株)	1
九電産業(株)	1(1)	日野テクノスタッフ(株)	1
(株)ニチワ	1(1)	富士重工業(株)	1
(株)トヨタテクノサービス	1(1)	大分キャノンマテリアル(株)	1
富士通日立プラズマディスプレイ(株)	1(1)	パナソニックエレクトロニックデバイス(株)	1
久光製薬(株)	1	日本モレックス(株)	1
王子製紙(株) 日南工場	1		

表Ⅱ7(3)-3 機械工学科の進学状況

* () は専攻科修了生で内数 (単位：人)

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	計
都城工業高等専門学校・専攻科	4	6	7	9	4	30
熊 本 大 学	2	1	3	2	1	9
九 州 工 業 大 学	1	2		3	1	7
長 岡 技 術 科 学 大 学		2		2	1	5
豊橋技術科学大学・大学院	1(1)		1(1)	1	1(1)	4(3)
鹿 児 島 大 学				1	2	3
宮 崎 大 学				2(1)		2(1)
広 島 大 学	1					1
東京理科大(経営工学科)	1					1
千 葉 工 業 大 学			1			1
そ の 他 (専 門 学 校)	1	1				1

(4) 電気情報工学科・機械電気工学専攻(電気系)の進路指導と進路状況

① 進路指導

当学科では企業経験のある教員の比率が徐々に増加しており、企業の視点も取り込んだ進路指導ができるようになってきつつある。

新入生オリエンテーションで、学科長が就職・進学の話を行うのを皮切りに、学科教員による低学年での特別活動を利用した就職・進学の話や企業見学など、学生に対し日頃から将来への関心を持たせるようにしている。

4年次からは、さらに強い意識付けをすることを目的に、校内研修で、様々な分野で活躍する2名のOB/OGの講話を聴かせている。学級懇談会では保護者との意見交換を行い、進路に関する大枠で齟齬が生じないようにしている。また、就職希望の学生には夏季校外実習にできるだけ参加するように指導している。こうした4、5年次は担任を連続させ、学生の適性把握に万全を期し、進路に関する齟齬をできる限り生じにくくしている。

企業のリクルーター対応は、主に5年のクラス担任が行っているが、授業等の場合には学科長、専攻科主任、4年のクラス担任なども対応している。その際の資料や郵送されてきたリクルート資料などは、ナンバリング、整理された上で、学生共用室に配備し、学生が放課後などいつでも閲覧できるようになっている。なお、学科長、専攻主任及び4、5年のクラス担任は、主に地区別に分担し、様々な企業に対して就職開拓を行っている。

<進路指導に関する主な流れ>

- 1年次 新入生オリエンテーション
- 2年次 特別活動を利用した企業見学
- 3年次 同上
- 4年次 校内研修(全体研修、学科内研修)
学級懇談会(保護者)
夏季校外実習
春季企業訪問
- 5年次 模擬面接(随時、学科教員)
就職試験及び大学編入試験

② 進路状況

過去5年間の求人企業数と就職希望者数を表Ⅱ7(4)-1に示す。常時350社以上の企業からの求人があり、

求人倍率は10倍をはるかに超えている。求人企業のほとんどは学校(学科)推薦での採用を望んでいる。過去5年間の主な就職先を表Ⅱ7(4)-2に示す。最高8名で、上位10社でも3名程度と、特定の企業に集中するのではなく、いかに多種多様な企業へ就職しているかが分かるが、電力系企業にはほぼ連続的に採用していただいている。地区別では、全国規模企業が多数を占めるため、やはり、京浜・阪神地区が多く、中京・福岡地区が続いている。

過去5年間の進学希望者数を表Ⅱ7(4)-3に示す。進学率は年により若干変動するものの、おおよそ40%±10%程度となっている。過去5年間の進学先を表Ⅱ7(4)-4に示す。もちろん、当校専攻科が圧倒的に多く、次いで高専出身者の編入受入を設立の基本としている豊橋・長岡の両技術科学大学や九州地区の国立大学工学部への編入が目立っている。

機械電気専攻科(電気系)修了生の過去5年間の進路を表Ⅱ7(4)-5に示す。専攻科修了後に大学院にさらに進学するケースが徐々に増加している。

表Ⅱ7(4)-1 過去5年間の求人企業数と就職希望者数

入社年度(平成)	18	19	20	21	22	最近5年間の平均
求人企業数(A)	380	457	560	605	420	484
就職希望者数(B)	17	20	25	21	27	22
求人倍率(A/B)	22	23	22	29	16	22

表Ⅱ7(4)-2 過去5年間の主な就職先(10社)

主 な 就 職 先 企 業 名	入 社 年 度 (平 成)					合 計
	18	19	20	21	22	
関西電力	1	2	2	1	2	8
メタウォーター(富士電機システムズを含む)	2			1	3	6
九州電力	1		1	1	2	5
旭化成		2	2			4
中部電力	1	1	2			4
三菱重工(名古屋航空宇宙製作所, 長崎造船所)		1	1	1	1	4
東京電力	1		1		1	3
きんでん	1		1	1		3
京セラ	1	1			1	3
富士通			1	1	1	3

表Ⅱ7(4)-3 過去5年間の進学希望者数

編入学年度(平成)	18	19	20	21	22	最近5年間の平均
進学者数(A)	20	16	15	17	12	16
卒業者数(B)	38	36	41	38	39	38
進学者率(A/B×100)	53	44	37	45	31	43

表Ⅱ7(4)-4 過去5年間の進学先

主要進学先 大学名	(編)入学年度(平成)					合計
	18	19	20	21	22	
豊橋技術科学大学	2	2	3		2	9
熊本大学	2	1	1	2	1	7
九州工業大学	1	1	1	1	2	6
長岡技術科学大学		2		3		5
鹿児島大学	2	1	1		1	5
九州大学	1	1	2	1		5
宮崎大学	2		1	2		5
東京農工大学				2		2
電気通信大学		1				1
和歌山大学	1					1
東京工科大学			1			1
立命館大学				1		1
都城高専専攻科	5	5	5	4	6	25
進学者数	20	16	15	17	12	80
卒業生数	38	36	41	38	39	192
進学率(%)	53	44	37	45	31	43

表Ⅱ7(4)-5 機械電気専攻(電気系)修了者の過去5年間の進路

入社(学)年度	進路	就職	進学
H18	(株)ホンダロック	2	1
	旭化成ケミカル(株)		
	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科		
H19	日本信号(株)	5	0
	日本情報クリエイト(株)		
	坂田電機(株)		
	(株)トクヤマ		
	(株)AVC放送開発		
H20	(株)インテム	3	2
	坂田電機(株)		
	九州工業大学大学院 情報工学研究科 情報システム専攻		
	九州電力(株)		
	ヒューマンアカデミー福岡校		
H21	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	2	0
	吉川セミコンダクタ(株)		
H22	(株)ミットヨ	3	2
	(株)イーコロール		
	東京エレクトロン九州(株)		
	筑波大学大学院		
	九州大学大学院		
合計		15	5